

長谷川と海宝を動労千葉破壊・襲撃の中心人物

日刊 動労千葉

82.7.5

No.1087

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）四三二二・七

「働こう運動」と「571大合理化」推進、「三里塚二期推進」
「動労千葉破壊のために送りこまれた革マル分子」
長谷川と海宝を断じて許すな！

千葉鉄当局は、動労「本部」カクマルと一体になり、ついに、七月一日付をもって、三五万人体制合理化の先兵、「働こう運動」の推進者、「五七・一」大合理化への協力者、そして、なによりも、一貫してわが動労千葉破壊の先頭にたつてきた革マル分子長谷川正彦・海宝洋好の東京から千葉への「転勤」を送りこみを強行した。われわれは、この動労「本部」革マル反動分子長谷川・海宝の千葉局への「強行「発令」強行「転勤」を断固として弾劾しなければならぬ。全力をあげてこれを粉碎する。
長谷川正彦・海宝洋好は、十数年来の動労「本部」革マル反動分子そのものであり、「本部」革マルによるこの十数年間にわたる、わが動労千葉への暴力とその組織破壊襲撃の常にその先頭にたつて指揮してきている人物である。



これが長谷川・海宝の★一九七九年四月三日、わが動労千葉新小岩支部結成大会を破壊する真の姿だ！
六五〇名が押しかけ枕木・角材・バールで片合をこやし、私入を図る。

その1
一九七九〇年の「暴力オルグ」の水先案内人……長谷川・海宝

動労「本部」革マル反動分子は、一九七九年あの四・一七津田沼への暴力的襲撃を頂点とする一連の、わが動労千葉への組織破壊「暴力オルグ」を約一年以上にわたって断続的に行ってきた。
この革マル分子の暴力的襲撃の先頭に、長谷川・海宝がいたことは、全支部組合員にとってわすれることができない。



(1982年3月、「6・12公判」の「本部」派、千葉地裁正門前)

その2
一九七二年「五・二〇再建オルグ」の水先案内人……海宝洋好

十数年来のレッキとした革マル分子である海宝洋好は、今から十年前の一九七二年五月十八日（二〇日の三日間にわたって行われた、いわゆる「本部」関東青年部による千葉地本全支部へのオルグ）「千葉地青再建オルグ」の先頭に立って各支部に押し入ってきたのである。そして、各支部で、組合事務所をこじあけ、事務所内をあらし廻り、あるいは、居合せた支部組合員に対し、一人一人どう喝しさらには「千葉地青は解散した。地本青年部を再建するのだ」など、組織破壊のための「オルグ」を強行してきた。そして、ついに五月二〇日には、千葉気動車区支部に大江・清水らを先頭に百数十名で押しかけ、「オルグ団」の入構を拒否する支部執行部の制止をふりきって、暴力的に乱入しようとした。

このとき、気動車区正門前にいた滝口地本青年部長（現幕張支部書記長）に対し、彼らは、ナグル・ケルの暴行をふるい、即入院という重傷を負せたのである。そして、千葉県警機動隊から「関東青年部ガンバレ」と激励されながら引き上げていったのであった。

その3
「鉄道謀略論」を率先してとなえ、千葉にのりこんできた……長谷川正彦



長谷川正彦は、数年前、関東青年部が津田沼電車で開催した「春闘総決起集会」に、当時茅ヶ崎支部青年部長として出席した。
そして、革マル党派方針そのものの「鉄道謀略論」をとなえていた。こうして長谷川は、動労の戦闘的歴史と伝統であった反合理化・運転保安闘争を「謀略論」にすりかえねじまげ、ついに、今日の「働こう運動」＝合理化積極推進者になり下がっている。
われわれは、こうした二名の札つきの革マル反動分子の「転勤」とは名ばかりの、まさに国鉄当局と一体となった、わが動労千葉破壊攻撃以外のなにものでもない者に対し、徹底的に断罪し、その責任を追及しよう。